

# 名経大通信

第14号

2005年7月15日

名古屋経済大学

<http://www.nagoya-ku.ac.jp/>

## p1-4 末岡学長、学生と語る 「良い出会いをしていますか」

p4 来年は創立100周年

p8 アメリカ留学で自己発見

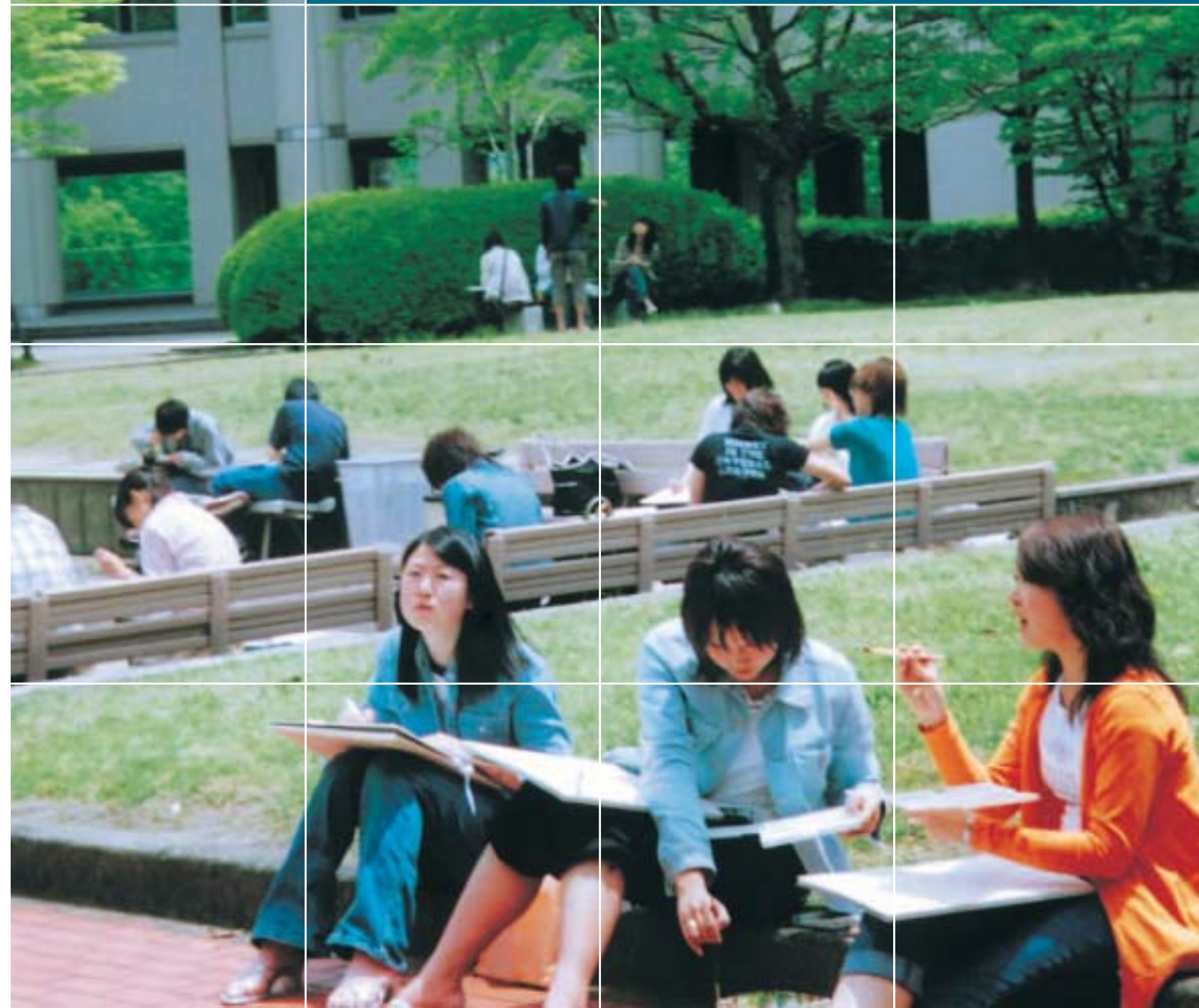
p11 犬山市の「次世代育成  
支援計画」を策定

p5 「大学運営戦略会議」発足

p10 卒業生近況  
「就職活動もアイデア次第」

p13 附属幼稚園と  
連携深める

p7 私の研究室  
商店街と交流する萩原ゼミ



## 末岡学長、学生と語る



「良い出会いをしていますか」

学長が学生とひざ突き合わせ——久しくなかったことです。超多忙の末岡学長に時間をさいていただき、今回、日の目を見ました。二時間、学長室での語り合いは大いに弾みました。やりとりのまとめです。

(広報編集委員会)

### 「大学の先生は想像と違っていました」

末岡学長 私は四十数年前、東京オリンピックの時に大学生活を送りました。当時の大学生活と今のそれとは、いろいろな点で違います。が、学生時代は、いつの時代でも、青春を謳歌するということでは変わらないのではないでしょうか。

私の大学生活で最も良かったことといえば、なんといっても良い先生、友人に巡り会えたことです。先輩、同輩、後輩との出会いがあり、四十年たった今でも時々、集まって話をする仲間が十数人居ります。皆さんにも、本学でぜひ良い出会いをしてもらいたい、これが私の第一の希望です。

皆さんの大学生活はどうですか。良い先生、よい友人とは出会えますか。

山本 大学に入ってから親友が二人できました。高校時代と違って一緒

に遊ぶ時間がないけれど自然に仲間くなれました。



短期大学部  
保育科2年  
山本浩史さん

小川 本学短期大学部からの編入で入学しました。短期大学部では、周りは女性ばかりで、緊張し、場違いな感じがして、続けていけるのが不安でしたが、男性一人ということと先生方に大切にしていただき、友人にも恵まれ、充実した二年間でした。大学は、授業の中心が濃く、速度も速くて、短期大学部とのギャップに戸惑ったこともありましたが、また、一限目からの授業、それに部活、夜十時の帰宅ですが、毎日すべてが充実した生活です。

遠山 大学に入って友人がたくさん

んできました。社会人入試で入った人や編入で入った人など、さまざまな年齢層の人たちと一緒に勉強すること、とても勉強になります。

学長 少年期の友人と大学生となつてできる友人とは全然ちがいます。また社会に出てからできる友人は、利害関係が絡む競争社会ですから、真の友人は作りにくい面があります。大学時代の友人には、親にも相談できないことでも相談でき、人生を左右するような友人ができるはずです。

同時にいい先生を見つけることも大切です。高等学校までの先生は平等に面倒を見てくれますが、大学では指導の仕方がちがいます。先生から一方的に与えることはしない。相談に行くと学生の個性に従ってどんどん引き上げてくれる。大学で知識を吸収するためには、先生との個人的なつながりが大切で、それを自分からつくる努力が必要ですよ。

すなわち自ら問題を発見して解決する能力を育てるのが大学で、それが大学生生活において最も大切なことだと思います。

大隈 大学の先生は遠い存在でしたが、想像とちがっていました。クラブの顧問の先生とも親しくなり、いろいろ話をして近い存在に

なりました。これからも良い関係を作っていきたいと思っています。学長 先生方と親しくなる場はいろいろありますね。講義、ゼミ、サークル等、せっかくの機会をぜひ生かして有意義な学生生活にしてください。

名城 大学生活三年目ですが、出会いは学内だけではなく、OB・OGとのタテのつながり、大学祭での地域の人との出会い、社会とのつながりも大切だと感じています。学問は社会に還元するものから。いま法科大学院を目指して、OBの人と勉強会を開いています。



法学部  
法学科3年  
名城佳彦さん

学長 名城さんは、法科大学院をめざしているということですが、ロースクールに詳しい指導をしていただける先生に出会うことができましたか。

名城 はい、ゼミの先生です。これまでの先生が東京に移られましたので、今は新しいゼミの先生に相談しています。もちろん以前の先生ともお付き合いは続いています。可知 もっと友達のを広げたいと思い、クラブ代表委員をやつて

います。軟式野球部に入っていて、部活と勉強を両立させたいと思っています。二つを両立させ、高校の商業科の先生になった先輩もいます。部活をやつていたほうが自分に残るものがあると思います。



経営学部  
経営学科3年  
クラブ代表委員  
可知岳彦さん

学長 今、体育会系の人材を求めている企業が多くあります。私は愛知大学野球連盟の理事もしています。各大学の野球部の学生の皆さんをみていて、部の統率、予算・決算の処理など、実にしつかり運営しておられると、いつも感じています。サークル活動に参加することで、授業だけでは得られないものが多くあると思います。

周 ヲ日本に来て、まだ日本人の友達を作れません。今は、夕方からアルバイトもあり、一人で授業を受け、そのまま帰るだけの生活で、

とても寂しく感じる時があります。学生の交流がもっとあつたらいいと思います。



経済学部  
現代経済学科2年  
周ケン娟さん

柴原 たしかに日本人の学生から話しかけないですよ。留学生の受け皿や接点を作る必要があると思います。交流会などのイベントを催してみてもいいでしょう。そうしないと不安な気持ちのままだと思います。

名城 昨年の大学祭で、留学生のたちが作った餃子を食べました。とてもおいしかったです。そんな機会をもっと増やす必要がありますよね。学長 留学生の人たちに寂しいと感じさせるのは残念です。本年の新入留学生は二十人ほどです。現在百数十名の留学生が在籍していますが、一人ひとりを全学生に紹介するなど、日本人学生と和みあう場を学内に作る必要がありますね。

## 「やりたいことが見つかる」

学長 本年度開設されました本学では初めての理系の新学部、新学科（人間生活科学部管理栄養学科・幼児保育学科）で活気づき、

新入学生の目が輝いて見えるという声が届いています。皆さんや皆さんの周りではどうですか。柴原 学生といつても一様ではな



く、やる気がある学生とない学生の差があるように思います。やる気がある学生は目的意識が明確なのだと思います。

小川 短期大学部では、就職活動において高い比率で内定を得ています。入学して半年で進路を決めることもあって、やりたいことがあるかないかはとても重要だと思います。

学長 柴原さんや小川さんが言ったことはとても大事なことで、目的意識をしっかりとって学生生活を送っていただきたい。

柴原 キャリアデザイン学科では目標が定まってるから入ってくる学生は比較的少ないと思います。むしろ目標を見つけてきているのかなと思います。私自身はやりたいことが山ほどありますが。



人間生活科学部  
幼児保育学科1年  
大隈愛恵さん

大隈 私はいろんなことを勉強したいと考えています。特に実習の機会を多く持ちたいと思っています。遠山 管理栄養学科は目的がはっきりしていて、目的意識の点では問題ありませんが、大学の授業についていくのに精一杯の人もいます。

小川 僕も普通科出身で、パソコンも商業関連科目も経験がほとんどなく、入学当初は大変でした。しかし、自宅とてにかく必死に復習し、半年かかって追いつくことができました。

学長 大学というところは「自から学ぶ」、そういうところです。学生生活は自分で積極的に挑戦し、臨むことが大事です。授業を受ければ単位がもらえますが、それで終わるのではなく、それを土台に更にも上を目指して自分で勉強しなければ、知識の上は望むことができません。そのレベルで終わってしまいません。目的意識をもち勉学意欲が高い人は常に上をめざして目標に向けて努力していただきたいと思います。

ところで、皆さん自身の目標、めざすものは何ですか。私の場合、父の影響で、小学校の頃から教師になるのが目標でした。大学でもそれを目標に勉強しました。山本 保育士をめざしています。

しかし、男性保育士はなかなか採用されにくい状況にあります。男性保育士が保育園にとってどうしても必要だと思われるような保育士になり、男性保育士の置かれた今の状況を変えていきたいと思っています。可知 大学祭行事のフットサル大会を成功させることが当面の目標

## 「自然環境は申し分ありません。ただ……」

学長 名経大について感じていることを率直に聞かせてください。

小川 私の出身高校は山の中にあたり、授業中に動物が入ってくるようなところでした。本学もよく似た環境にあり、とても親しみが持てました(笑い)。短期大学部では、先生方が親身になって相談に乗ってくださり、きめ細かく指導いただき、本学で学んで本当によかったと思っています。



経営学部  
経営学科3年  
小川将輝さん

名城 自然環境は申し分ありません。ただ、夜遅くまで勉強していると、学内の食堂や売店は閉まっていますし、学外のコンビニ

です。また、教職をめざしています。そのために日商簿記検定の二級の取得もめざしています。小川 二月に販売士の資格を取得しました。父が不動産業を継いでほしいようなので、次は、宅地建物取引主任者の資格をめざしたいと考えています。

も本学から遠いので、困るときがあります。夜でも、授業のない土曜日でもキャンパスがいつも学生で賑わう、もっともっと活気ある大学になればよいと思います。

小川 僕はテニス部に所属していますが、ナイター設備があるともっと練習できてうれしいのですが。学長 最近、本学のサークル活動は停滞気味です。来年の学園創立百周年に向けて施設・設備の充実をし、サークル活動の活性化を図っていきたくて考えています。学生諸君の活躍を期待したいですね。周 スポーツだけでなく、弁論大会に出ることも大学の知名度の向上につながります。学内でも弁論大会を開催していただきたいと思っています。

## 「本学の卒業生でよかったと思う、 そういう大学に」

学長 私学には、それぞれ独自の  
建学の精神があります。本学の母  
体である市邨学園の創立者、市邨  
芳樹先生は建学の精神を「一人に

物、二に伎倆」と、人物教育を目  
標に掲げました。これは伎倆を磨  
くことにより本学の教育の目的で  
ある人物も自ずと優れたものにな  
るという意味で、伎倆と人物は手  
段と目的の関係にあります。先生は  
めざすべき人物像を、「慈・忠・忍」  
(慈愛・忠実・忍耐)、「桜は桜、松は

松」(個性の尊重)、「商人は物を売る  
べからず、腹(信用)を売るべし」  
といった言葉で説かれてきました。



人間生活科学部  
管理栄養学科1年  
遠山優子さん

遠山 私は、附属高校の高蔵中  
学・高蔵高校卒業です。母も高蔵  
同窓生です。小学校では周りのみ  
んなに合わせるようにしてきまし

たが、高蔵中学ではみんなに合わ  
せるのではなく、個性を大切にし  
なさいと教えられました。市邨芳  
樹先生はすごいと思いました。



短期大学部  
キャリアデザイン学科1年  
柴原真由さん

柴原 私は三重県の高校の出身で  
す。私も含めて多くの人はこの建  
学の精神をよく理解していないの  
では、と思いますが。  
学長 古くからある伝統ある他大  
学も、近年時代の流れと共にその  
特色が平準化されてきているよう

に思います。宗教に基づき創立さ  
れている大学などはその精神や理  
念を伝えやすいのですが、人物教  
育、商業教育を目的として創立さ  
れた本学の場合は、特色をより明  
確にするためには、「建学の精神」  
の解釈を時代に即して提示してい  
く努力が必要だと考えています。

来年はいよいよ本学園が創設され  
て一世紀となる節目の年です。いま  
以上に、皆さんが「本学で学んでよ  
かった」「本学の卒業生でよかった」  
と思う、そういう大学にしていきたい  
と思っています。皆さんも、建学  
の精神の具現化と自分自身の目標に  
向かってしっかり勉強してください。

## 市邨学園百周年記念事業

名古屋経済大学の設立母体であ  
る学校法人市邨学園は、明治四十  
年、創立者市邨芳樹先生により女  
子商業学校として発足しました。  
以来九十九年を経過、平成十八年  
には学園創立百周年を迎えます。

この記念事業準備委員会(委員  
長・末岡照章理事長)が五月二十

六日開かれ、次のような計画を決  
めました。一部の事業はすでに実  
施されていますが、具体的な内容  
については今後、同委員会で検討  
されます。

### 一、記念行事

1、祝賀会の開催(平成十八年

十一月予定)

2、記念イベント(コンサート、  
講演会など。平成十八年度ないし  
十九年度に予定)

3、記念同窓会(大学・短大・  
高校・中学)の開催

### 二、記念事業

1、学園百年史発刊、ビジュア

ル誌発刊(昨年より市邨芳樹に  
関する資料を収集、創立者の個  
人史に関する記述を充実させ、  
百年分の学園及び各設置校の歴  
史と現状を記述、平成十八年度  
に刊行予定で編集作業中)

2、名古屋経済大学・名古屋  
経済大学短期大学の外構整備  
工事及び運動場整備

# 「大学運営戦略会議」設置

変革の時代に対応し、社会に貢献できる人材を育成

本学ではこれからの変革の時代に的確に対応できる学内挙げての推進組織として、「名古屋経済大学運営戦略会議」（議長：末岡熙章学長）を二月に設置しました。六項目の緊急課題を掲げ、各ワーキンググループ（WG）で具体的な推進作業を始めました。真に社会に貢献できる人材を送り出せる教育機関の実現のため、果敢に取り組み考えです。

（事務局長・佐々木龍夫）

## 大学運営戦略会議

1. 長期経営計画策定WG
2. 入試対策WG
3. 就職対策WG
4. 学習環境学内環境充実WG
5. 教務・学内総合管理WG
6. 人事組織機構改善WG

## 本学会議

二〇〇七年といわれる大学志願者全入時代を目前にし、国公立を問わず大学は存立をかけた厳しい状況下に立たされています。中央教育審議会が提言した「わが国の高等教育の将来像」を見ますと、

新時代における高等教育のあるべき姿や方向性について述べているのと同時に経営が立ちゆかなくなつた教育機関については後退もやむなしとする危機的な捉え方をしています。

本学におきましても、これまでも増して真に社会の要請に応えられる人材を養成し、送り出していく努力を果たしていかなばなりません。

これからの時代に必要とされる資質、能力を学生一人ひとりが備え、高めていくための教育機関として、より一層の体制、環境の充実が強く求められているところです。

本学園は再来年には創立百周年を迎えますが、この間に培われた学風を背景として、今ある姿を真摯に見直し改めるべきところは躊躇なく改めていく。そして、二年間あるいは四年間を学んだ学生たちが自信と誇りをもって巣立っていくような学習環境を築いていくのが私も教職員に求められる責務ではないかと考えます。

これまでの改革への努力に加え、新たな視点、発想からの積極果敢な取り組みが求められており、運営戦略会議を発足させました。

戦略会議で対応すべき課題は学内全般にわたり、将来を見据えた緊急性の高いものです。教員と職

員の一致協力を得た上、全教職員約五分の一がワーキンググループに参加しています。組織のあらましは次の通りです。

（一）名称は名古屋経済大学運営戦略会議とする。

（二）組織の構成は、「運営戦略本部会議」及び、その下部組織として課題に応じた「ワーキンググループ」を設置する。

（三）本部会議は、学長、副学長、大学副学長、短大副学長、事務局長、大学各学部長、短大各学部長、総務部長で構成、学長が議長を司る。

（四）ワーキンググループは当面六項目の主要課題に応じて設

け、それぞれ教員及び事務局長若干名で構成し、各グループに正副代表を置く。各ワーキンググループが立案したアクションプログラムの課題、数値目標、達成時期などを本部会議が確認、確定する。

長期にわたる課題については成果が確認されるまでワーキンググループが継続して進行管理を行い、課題が残る限り当会議は存続します。

これからの時代に求められる高等教育機関としての役割や特性などを、より明確に位置づけながら、更なる期待に応えられるよう本学が変革成長していくための推進の核となるものです。

## 九月に市民開放講座

英語教育センターは昨年に続き、英語圏の社会・文化に関する講座を市民のみなさんを対象に開きます。

講座内容は次の通りで、はがきによる受講申込みを八月十日（水）必着で受け付けています。犬山市内久保六一ー一の本学へ。受講料無料。

「文学の中の樹木」経済学部助教授 大野 隆

・九月七日（水）・九月九日（金）

「アメリカ大統領選挙の結果報告」法学部教授 宮川 昇

・九月八日（木）・九月十日（土）・九月十二日（月）

「大江文学の生い立ちをたどる」短期大学教授 武田康雄

・九月十三日（火）・九月十四日（水）  
（いずれも午後一時半～三時、本学の教室で）

# 新しい先生を迎えて

今年度は新学部の設定もあって、十五人の先生方を迎えました。今号だけでは全ての方を紹介できませんので、今回は各学科から一人ずつの自己紹介です。



法学部  
法学科  
柳本祐加子 助教授

出身は東京都。早稲田大学大学院から北陸大学法学部を経て本学に迎えていただきました。今年の担当科目は民法物権法、債権法総論、契約法に関する演習科目等です。ここ数年、「契約の成立」の他、「女性や子どもに対する暴力」も研究テーマとされています。被害者支援活動に取り組む中で知りあつた当事者や支援者の方々からの法制度に対する問題提起に触発されています。こうした現場からは、近代法の枠組を越える新しい法理論の創造が求められていることを感じます。

DVや子どもに対する虐待という日常生活の中の人権侵害という深刻なテーマを抱きつつも、名古屋の街の散歩がてら、面白いものや、デパ地下のおいしいそうで珍しい食料品やお菓子をみつける楽しみを味わっています。



人間生活科学部  
管理栄養学科  
伊藤 誠 教授

私の前職は名古屋国立大学医学部第一内科の教授です。専攻は消化器ですが、教室は消化器のほか循環器、呼吸器・感染症、内分泌・糖尿病という診療・研究グループで構成しておりましたので、内科学一般の臨床に携わってきました。また、日本消化管学会の理事長として消化管病学の振興と、現在は胃腸科専門医を認定するための準備を進めております。

本学での講義は二年生の後期からで、病態学、臨床栄養学を担当いたします。栄養学は病気の有無に拘らず年々重要性が増しております。本学は、臨床栄養センターを併設して講義と演習を組み合せた実践的教育を目指していますが、これは他校にない特色です。この特色を生かし有能な管理栄養士が活躍できると期待しております。どうかよろしくお願いいたします。



人間生活科学部  
幼児保育学科  
伊藤博美 講師

私は、三重県生まれで名古屋大学大学院出身です。「教育の方法」や「教育と社会」など教職関係の科目や人間生活科学部の「総合科目（食と育）」を担当しています。研究は、「ケア」や「ケアリング」という古くて新しい人間関係のあり方をテーマとしています。

保育や福祉、医療の場だけでなく、生まれてから死ぬまでの間に結ぶケアリングの人間関係は、人間の間にあるちがいをむしろプラスに変えてくれます。学生さんたちと豊かな人間関係を作り出せれば幸せだと思います。

最近の趣味は癒し系。少し遠くまで車で走って、地球からの恵みたる温泉で湯浴みを楽しみ、ほぐれた体に冷たいビールを流し込めば、すっかりリラックス。地球と人間とのケアリング(?)を享受しています。



短期大学部  
保育科  
忠津玉枝 教授

福祉系の短大で実践分野の心理学に取り組み、その後教養系短大での教学と格闘するうちに三十七年が過ぎました。当時、日本は高度成長への道を歩み始め、今日に至るまで社会システムの変換に伴って激変する社会生活は人間性や人間能力をめぐる課題提起のインパクトとなつて、専攻する発達心理学分野の研究を、高度成長させました。もちろん発達科学内部にも言語学、脳生理学、情報科学などの学際的な出会いがあり、乳幼児研究には高年齢と共に未踏の沃野が広がっていました。

この間、大学もエリート養成からマス化し、現在のユニバーサル化に至る道を歩み、変貌激しい時代を反映する学生たちの行動様式や意識には戸惑い、時には共感しながら共に学んできました。いま少しこの歩みを許され、これを充実させたいと願っております。

## 私の研究室

# 商店街(扶桑町)の活性化を考える

## 表現力や礼儀もマスター 萩原ゼミナール

経営学部の萩原ゼミでは、丹羽郡扶桑町の「柏森商店街活性化プロジェクト」に取り組んでいます。扶桑町は犬山市の隣町で、皆さんもよくご存知の名古屋名産守口漬のあの細長い大根、守口大根の生産地として有名です。現在では全国の約七割の守口大根が扶桑町で生産されています。しかしながら他の自治体と同様に住民の高齢化などに伴う地域経済の地盤沈下に悩んでいます。

その扶桑町から名古屋経済大学に柏森商店街活性化プロジェクトに協力してほしいとの要請があり、昨年萩原ゼミで商店街の経営者の皆さんとともに考え、取り組んでいます。特に大規模店舗の進出などにより地盤沈下が著しく、シヤッター商店街化している柏森商店街の現状をどう打開していくかという課題について検討しています。

扶桑町経済課や地元商店街の経営者の皆さんといっしょにゼミを行う合同ゼミや、うまく衰退状況からカムバックしている他の商店街がどのような戦略を用いているかを研究する合同見学会などを実施しています。地元の商店経営者とオープンかつ対等な立場で現状の経営について議論し、衰退の原因を分析するとともに、これから柏森商

店街の活性化を図るための経営戦略について考えています。

具体的には、空き店舗活用事業について、戦略の立案から場所の選定、補助金の受け入れからその利用と経営戦略実施に至るまでを計画中です。通常は大学が休みの二月や三月にも萩原ゼミはあるので学生は大変ですが、一般の人も参加する大きな会議の場で発言する方法や目上の人と会話する礼儀や技術を身につけることができ、就職活動にも役立つしていると好評です。

さらに扶桑町役場からは日頃の萩原ゼミの活動内容が認められ、本年度から名経大生を役場にインタインシップで受け入れてくれるというお話をいただきました。今後も萩原ゼミではこのような地域と密着した活動を通じて、地域の発展に貢献していきたいと考えています。

### 人間生活科学部附属

### 「臨床栄養センター」

### 開設記念講演会

人間生活科学部の開設とともに、その附属施設として設置された「臨床栄養センター」の開設記念講演会が、五月七日(土)、

中野昌俊 教授



中野紀和男 学部長、坂井田宏・臨床栄養センター長

本学において開催されました。

の挨拶に続き、最初に、

東口高志氏



東口高志氏

(藤田保健衛生大学医学部外科学・緩和ケア講座教授)が「わが国のNST立ち上げの現状と展望」と題して、

続いて、中野昌俊教授(人間生活科学部)が「登校拒否児のためのフリースクールを開設して」と題して講演を行いました。

東口氏からは、NST(栄養サポートチーム)の役割について、市民に信頼される質の高いNSTの育成と運営システムのあり方について具体的な実践例が紹介されました。また、中野氏からは、自らが立ち上げたフリースクール「どんぐり<sup>むかがた</sup>向方塾」で取り入れられている体験学習の意義と実際について紹介されました。

学生、市民、病院関係者ら約百人が出席し、講演会終了後は、臨床栄養学実習室等の施設見学が行われ、早川麻理子助教と中東真紀講師により、教育内容と設備の説明が行われました。



# アメリカ留学 で自己発見



法学部4年 藤岡利彰さん

私は、学生時代の大半を自己発見と将来のビジョンの確立という点に費やしてきました。特に自分は何に対して興味を持ち、また将来どういった目標や願望を達成していきたいかを自己の適性を踏まえながら模索していました。というのも、まず行動理由、すなわち興味や願望のようなものに個性がなければ、これから行おうとしている事柄に対する継続性など生まれてはこないと考えていたし、また自己の中に何らかのテー

マを、人生のターム毎に置かなければ、生活の時間を無駄にしてしまい、将来が単純化される気がしていました。そういったことを考えながら、本学入学後、過ごしていたのですが、私は、アルバイト、通学、遊びという典型的な学生生活を送っており、次第に生活も単調になっていきました。そういった中で、自分なりの現状の変化という考えから留学という一つの選択肢に辿りつきました。私は、約3年間アメリカで過ごしたのですが、とても貴重な経験ができ、また得たものも大きかったのではないかと

思います。勿論、英語力は格段につき、事実TOEFLのスコアも八百点以上とれるようになりましたが、それ以上に他の文化、人種、十色の人々、そしてそれらを取り巻く環境との接触などから、自分の視野、思想、世界観が広がったように感じ、そのことでまた新たな自己発見と成長ができたように感じます。

また、アメリカの大学、COGNATE COLLEGEで専攻したビジネスという分野は、私に新たな興味を抱かせました。将来、このフィールドで活躍していきたいと望んでいます。いま名古屋経済大学で専攻

として法律もビジネスに欠かさない専門知識として、以前にも増してとても重要なものになりました。

最後に、学生生活、時間があることはとてもいいことだと思えます。確かに、ありすぎて逆に無駄に使ったりもしますが、人生の中でこれだけ、経済的にも時間的にも自由にできる時はないのではないのでしょうか。興味があれば渡米するのもいいし、もっと別のことも良いと思います。ただ一つ、何か自分が真剣になれるものがあれば、道は、色々な方向に広がっていくと思います。

## 和気あいあい 足で情報を運ぶ

経済学部  
岸野澄子ゼミナール

高齢者福祉、公共事業、学校教育…、私たちの生活に最も身近に存在する自治体の行財政問題について、岸野ゼミでは資料や教科書を用いて研究している。夏休みになれば、実際に自分たちが住んでいる地域の市役所に行き、自治体の現状と市政に



ついて取材し、その内部の真髓まで踏み込んで調べる。

ゼミのレポート会議では自分たちが調べたレポートを要約し、発表する。和気あいあいと、疑問があれば何でも話せる。開放的であり、責任感を持たされ、やりがいがある。

一人ひとり個性も違えば、考え方も異なるので、摩擦が生じるときもあるが、岸野先生が個々の能力や性格を尊重してくれているため、楽しく明るいゼミが創られ、今ではゼミ生

みんなで忘年会を行うほどである。三年次の後期試験明けには三重県の実験センターへゼミ旅行に出かけた。就職活動の時期で悩みもあるが、気分転換。中国の留学生ともコミュニケーションが図られ、よい思い出になったと思う。

私たちは、三位一体改革、郵政民営化、少子高齢化、都市事業など、気になるテーマを追求し、「情報は足で運ぶ」を意識して、最高の卒業論文を仕上げたと思っている。

## 「訪問介護員」

## 養成研修の開設

キャリアデザイン学科ではさつそく今年度から「訪問介護員（ホームヘルパー）」養成研修2級課程の講座を開設しました。

この研修には本

学学生と地域の人たちが参加し、幅広い年齢層で構成され、毎回の講義を真剣に、かつ楽



資格が得られます。

社会的、地域的ニーズにすばやく対応するため取り組みです。学生もいろいろな経験をもつ人と一緒に学ぶことで、多様な価値観を身につけることができると思います。

## 「若者とキャリア形成」

## 記念講演会

キャリアデザイン学科開設記念講演会が六月二十八日、東京大学社会科学研究所の玄田有史助教授を招き、名古屋市中区の名古屋ガーデンパレスで開催されました。玄田氏は「若者とキャリア形成」と題し、キャリアとは何か、若者の進路選択において悩む事の重要性などについて講演をされました。

会場には高校の進路指導の先生方を中心に多くの方々が詰めかけて盛況でした。



## 適職診断も

## 「支援室」発足

短期大学部キャリアデザイン学科の開設に伴い、一号館四階に「キャリアデザイン支援室」がオープンしました。支援室の開室は、月曜日から金曜日の午前九時半から午後四時半までです。

支援室には、相談コーナーやパソコン利用コーナー、ビデオ視聴コーナー、多目的スペースなどがあり、支援室では、キャリアデザインに関する図書や雑誌の閲覧や

ビデオの視聴、コンピュータによる適職診断、キャリアデザイン学科教員スタッフによるキャリア相談などのサービスを実施しています。



## めいけい点描

## 万博セミナー

「万博」をめぐり、万博セミナー。誕生間もない短期大学部キャリアデザイン学科では七月十四日、一年生全員が、愛知万博（愛・地球博）を見学しました。

国際的視野を広げたいと、長い列ができる企業パビリオンをできるだけ避け、百二十か国参

加の外国館に目を向けました。下見をした先生が特に「国連館」を薦め、途上国の悲惨な状態などを手がかりになりました。

午後三時に解散後も見学を続けた学生が多く、パビリオン、民族衣装のデザインや色彩などに刺激を受けたようです。十月の大学祭の準備も始まりますが、主要テーマは、どうやら「万博」に。

# 就職活動もアイデア次第で 楽しくなります

## 卒業生近況



02年度経済学部卒業  
柴田 真里さん

大学を卒業して三年目を迎えました。現在、第一生命保険相互会社東海サービスセンターに勤務しています。直接お客様に対応するのは初体験です。新しい発見と勉強の毎日を過ごしています。

この就職のきっかけは、大学で「ユニバーサルデザイン」の卒論研究に取り組み、また愛知学長懇話会の単位互換講座を活用して他大学の「ユニバーサルデザインの建築について」という講座を受け、学外単位を取れたことです。

すべての人に便利なユニバーサルデザインを考えるうちに、生涯設計の観点から目標となる道も見えてきました。いざ就職活動を始めてみると、「なぜ、この会社を希望したのですか」と質問され、なかなか答えを出すことができせん。

私は同社のパンフレットに目をつけ、そのペーパーが「ユニバーサルデザインを取り入れているか？ 形は？ 大きさは？ ページのめくりやすさは？ 差別用語は含まれていないか？」など、各

社のパンフレットと見比べました。面接ではパンフレットを広げ、「パンフレットの魅力」について説明しました。面接の方は驚いた顔をみて、「長年、面接に立ち会っているが、パンフレットに惚れました」と聞かされたのは初めてだよ」と言われました。

就職活動はアイデア次第で楽しいものになります。自分が興味を持つている分野があれば、どんなチャレンジしてください。すぐに、「良い結果」にならなくても必ず経験という形で、いつか役立つときがくるはずですよ。

希望の入社で喜んだのもつかの間、いったん保険業界に入れば大学よりも試験が多いといっても過言ではありません。試験の難しさに音を上げていた折、会社の先輩から「学生の時はお金を払って勉強をした。今はお金をもらって勉強をしている。そう考えることよ」とアドバイスをいただきました。

それからは、すべてにおいてプラス思考で考え、勉強も毎日の仕事を楽しくするための手段だと力を入れるようになりました。

皆さんは「保険」と聞いて、何を思い浮かべますか？死亡してしまつたらもらえない保険、長生きすればするほどお得な保険など、

種類は数限りなくあり、新しい保険商品が次々に誕生します。その魅力をお客様に説明しています。日々の勉強の成果が出る瞬間です。現在の私の目標は「仏語検定3級合格」です。大学二年の時から続けているフランス語を会社でも

役立つことのできるレベルまで続けていきたいと考えています。「人生は勉強です」。必ず勉強しなければならぬ日があります。「どうせやるなら、楽しく、元気に、志を高く」好きな道を進んで行きたいと願っています。

## 後援会総会、教育懇談会

本年度の名古屋経済大学後援会総会は六月四日、本学の大講義室を満席にして開かれました。役員改選で留任が決まった柴田弘会長は「大学教育について後援会として全面協力をさせていたきたい」と挨拶されました。

また、末岡学長は「充実した学生生活を送ってもらうため努力をします」と述べ、西尾学生部長、小久保就職部長から現況が報告されました。

引き続き、教育懇談会を開きました。コミュニケーションプラザで経済学部、経営学部、人間生活科学部、短期大学部、プラザでは法学部の教員が保護者と面談、学業や日常のことを話し合

いました。

教育懇談会は本学会場のほか、沖縄（六月十八日）、福井（同二十五日）で行いました。他の地域は後期に予定されています。



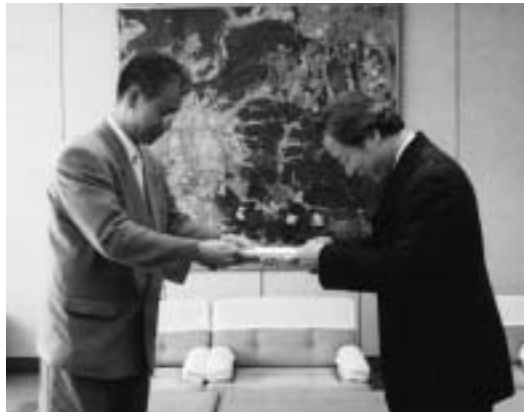
# 犬山市の『次世代育成支援行動計画』をまとめる

人間生活科学部教授 石川昭義

平成十五年七月に成立した「次世代育成支援対策推進法」は、わが国の少子化の流れを食い止めるために各自治体が具体的な施策を定め、それを行動計画として打ち出すことを求めました。

犬山市がこの行動計画をまとめるにあたり、平成十五年十二月に「犬山市次世代育成支援推進協議会」が設置され、私は、保育科の船井廣則教授とともにこの協議会に加わりました。初会合の席上、石田芳弘市長から「この会議は政策立案集団です」と言われ、大きな責任を感じながら議論がスタートしました。

犬山市の将来を担う子どもたちが健全に育ち、大人も自信をもつ



子育てに取り組めるようにするにはどのような施策が必要なのか。このテーマは、子どもとともに大人も成長し、地域が子どもの誕生を契機に活性化するまちづくりそのものであります。

計画を策定するために、大がかりなアンケートを実施し、いろいろな団体とのヒアリングを実施しました。施策の内容について、協議会や行政事務局と議論を重ねましたが、予算の裏付けをめぐっては厳しいやりとりもありました。

平成十七年三月二十五日、これまでの議論の成果を『犬山市次世代育成支援行動計画』としてまとめ、石田市長に提出しました。上の写真。"

行動計画は、「子どもの瞳と笑顔が輝くまち犬山」を基本理念として、「地域における子育て支援」をはじめ七つの柱でさまざまな施策が体系づけられています。重点施策の中には「地域の人々による教育・保育への参画」を入れました。民生・児童委員や中高生だけでなく、本学が地元にある大学として、市民の活動や保育の場面にもっと学生が参加することができれば、学生と地域の活性化につながるという思いを込めました。

地域を盛り立てます

## 犬山市議会の本学見学



五月二十七日、犬山市議会総務委員会の委員ら十五名が、本学を見学されました。

平成四年

に犬山市と本学は地域と大学発展のため、幅広い分野で相互交流協定は締結しました。その一環として、市民に広く開放されている図書館の利用状況について総務委員会から説明を求められました。なかでも、利用者登録人数の推移、

貸出サービスについて関心をもたれ、学外者の登録人数で、犬山市民は何パーセント位か質問がありました。

また、同日の参加者の多くは、本学図書館の見学が初めてのため、閉架図書や、設置学科関連の専門書等の蔵書数（約三十二万冊余）に感心されました。見学者の中には、早速利用の手続きをする方もありました。

次に情報センターの施設見学をされ、「情報社会としての大学」の実現を目指すセンター役割について理解を深められました。その後コミュニケーションプラザで本学の職員と和やかな雰囲気の中で懇談しました。

## 2005 犬山オープンカレッジ

- 第一回 九月二十四日(土)  
この国の「かたち」について  
高田豊實(短期大学教授)
- 第二回 十月二十三日(日)  
国際通貨のお話  
岩崎一生(法学部教授)
- 第三回 十一月二十六日(土)  
宝石をつくるー結晶を育成する方法  
横山光伯(経営学部教授)

### 第四回 十二月十七日(土)

- 最近訪れた中国
- 谷川 毅(法学部助教授)
- 【会場】一、三、四回が犬山国際観光センター、二回のみ本学
- 【開講時間】毎回午後二時より四時
- 【定員】百五十人(先着順)
- 【受講料】無料
- 【申込み】八月十五日(月)から犬山市民生涯学習課で受付
- 【主催】名古屋経済大学学術研究センター
- 【後援】犬山市、犬山市教育委員会、犬山商工会議所

## 「花と緑のフェスタ小牧」 エイサー部が出演

愛・地球博の地域連携プロジェクト事業で、六月開催された「花と緑のフェスタ小牧」に、津梁エイサー部が賛助出演しました。

同月四日（土）、十一日（土）、同市総合公園にエイサー部員、約十人が参加。珍しい沖繩芸能が家族連れなどに喜ばれ、「バラとアジサイの夢咲くパーク」に花を添えました。



## 小学生120人が訪問 心理学の授業に喚声

四月二十一日（木）、犬山市楽田小学校の五年生、百二十人が、社会見学会として本学を訪れ、人間生活科学部の伊藤健次教授が「見えとこころの働き 見えの心理学入門」と題して授業を行いました。



四月二十一日（木）、犬山市楽田小学校の五年生、百二十人が、社会見学会として本学を訪れ、人間生活科学部の伊藤健次教授が「見えとこころの働き 見えの心理学入門」と題して授業を行いました。

スクリーンに「錯視」が示されると、どのように見えるかを発表しながら、講師との対話が進みました。児童からは、あまりの不思議さに時折「えーっ？」という驚きの喚声もあがり、楽しく授業は進みました。

授業の後は、二班に分かれて、図書館、情報センターを見学し、昼食をはさんで体育館も見学しました。情報センターでは、職員の指導のもとでパソコンの基本操作を習うとともにインターネットを経験しました。児童の中には愛知万博のホームページにアクセスした人もいました。

昼食はコミュニケーションプラザで本学のランチを食べました。児童のなかには、市郵幼稚園出身の子どももいて、懐かしい思い出の訪問となりました。

## あるく たべる

## 薪釜でピッツァ焼く

もつ、三十年以上も前になるが、学生時代にイタリアを訪ねた。貧乏学生の私は、バスあるいは徒歩でルネサンスの壮大な文化に触れ感動した。

ローマの寺院を出て、周辺を散策しているとき、煙突のある小さな古い一軒家に行列のできているのを見つけた。のぞいて見ると、レンガ作りの窯の中に薪がくべられ、ピッツァが次から次へと焼かれている。それを六つに切り分け「ピースずつ売っている」のである。早速、並んで買いた。厚手の生地ではあったが、ふっくらもっちりとした感触は今も忘れられない。

そんな懐かしさを感じさせてくれるお店が、今回のピッツェリア、マンジャーレである。薪釜でピッツァを焼いてくれるのである。薪は、火力が強く、香りが良いため櫓の木を使用しているという。そういえば店の周りに薪が積んであった。注文してからこぶし大ほどの丸い生地を大理石の台の上で、丁寧に手で広げ、最後に高く空中に放り投げ、写真「十二インチのサイズに仕上

げる。その作業は見ていて飽きない。

ここはいわゆるミラノ風の薄焼ピッツァだが、もっちりした感触は変わらない。時々学生さんと出かけるが、いつもランチを注文する。ランチにはサラタに学生さんに好評の食べ放題自家製イタリアパン、そしてお目当てピッツァ、さらに飲み物がついている。ピッツァは、五種類から選ぶことができ、ピッツァの代わりにバスタも選択できる。

名鉄犬山線楽田駅から歩いて五分くらいである。車なら大学から十分もかからない。最近、名古屋港にイタリア村ができ、当初の予想以上に好評であるという。窯焼きのピッツァもあるそうだが、名経界隈で本格的ピッツァが気軽に楽しめる。一度覗いていただきたい。

（近藤久）

住所 犬山市寺西八八五  
〇五六八（六七）八八〇〇

キャンパスの周辺で、ここという味どころ、見どころを紹介してください。先生、学生からの寄稿を歓迎します。





## 附属幼稚園と保育系学科との さらなる連携を めざして

短期大学部保育科 科長  
中西 齋之助

名古屋経済大学短期大学部保育科（旧市邨学園短期大学保育科）は、昭和四十二年に開設され、今年で三十八年目を迎えました。そして、本年度、大学に人間生活科学部幼児保育学科（四年課程）が新設され、本学の保育者養成の新しい歴史が始まりました。

本学における保育者養成の歴史とともに歩み、またその歴史の一端を支えてきたのが同じキャンパスにある「名古屋経済大学附属市邨幼稚園」です。開園は、昭和四十三年四月。最初の名称は、「市邨学園短期大学附属幼稚園」で、初代園長は末岡好先生でした。

これまでも、短期大学部保育科と附属幼稚園との間でさまざまな取り組みが行われてきました。保育科学生の幼稚園実習の場としてはもちろん、短大の教員が園児の運動能力を測定したり、保護者へのアンケート調査を実施したり、教育と研究の連携が図られてきました。

最近では、実習のほかに「総合演習」という科目の研究発表の場として十二月に「いちむらつこまつり」を開催しています。学生が「環境」や「人権」といった人類的課題をテーマとして考案したオリジナルの教材を実際に園児の前で実践する行事です。

一方、保育科の教員が園児の保護者を対象に講演を行い、大学のスポーツ施設を利用したテニス・ゴルフのスポーツ教室を開催するなど、社会的な活動も継続して実施されています。

私たちは、幼児保育学科の誕生を契機に、これまで以上に附属幼稚園との相互関係を深めていきたいと考えています。

附属幼稚園は、一つの独立した幼児教育機関であるとともに、大学と連携して教育・研究を行う役割を担っています。本学の附属幼稚園では常に大学と連携し、その人的な資源や物的な資源をフルに生かしながら幼児教育が展開されています。

附属幼稚園のいっそうの活性化と地域の子育て支援に向けて、短期大学部保育科と人間生活科学部幼児保育学科は力を発揮していきたいと考えています。それは、園児のみならず、保護者にとっても、地域の皆さんにとっても、保育を学ぶ学生にとっても、そして大学や幼稚園の教職員にとっても大きな成長の糧となるからです。

今後の連携のあり方について、今まで以上に取り組みに力を入れたいと思っている事業は次のとおりです。

\* 在園児の発達相談と障害のある子どもの継続指導

\* 幼児の子育て相談

\* 地域の障害児への発達支援

\* 保護者や地域の皆さんを対象とした講演会

\* 絵画、工芸、合唱、スポーツ、パソコン等の趣味講座の開催

\* 大学施設 絵本ライブラリー、プレールーム、トレーニングブリス、造形関連教室）を利用した保育の展開

\* 親子で楽しくできる「遊び方」講座の開催

\* 附属幼稚園教諭との共同の研究会や発表会

\* 学術研究センター内「幼児教育研究会」と共同企画

こうした大学を挙げての取り組みが理解されて、附属幼稚園がさらに活況にみちた子どもの「学びの園」になるよう私たち教員も協力していきます。

### 就職部「土曜日開業」

就職部は四月から毎週土曜日  
も開業しています。就職受験先  
へ提出する証明書類の発行など  
を受け付けています。

時間は午前九時十分～午後五時

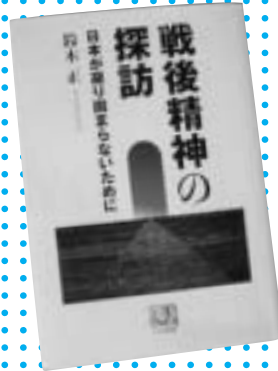
問合せ先 056&677254

就職部直通

# 「戦後精神の探訪」―日本が凝り固まらないために

鈴木 正(副学長)著

農山漁村文化協会 人間選書258



農文協(農山漁村文化協会)

は『安藤昌益全集』を出した出版社であり、アメリカ、カナダ、ロシアなどでも研究されている。独自の思想家・昌益をテーマにしたシンポを東京と中国の山東大学で主催し、そのとき講演を引き受けて以来のつきあいである。この出版社から日中共同出版の「戦後日本の哲学者」(王守華との共編)や私が編集・解説した「憲法を愛していますか 金森徳次郎憲法論集」も刊行されている。このシリーズ「人間選書」には、これまで「日本近現代思想の諸相」「日本近現代思想の群像」が入っている。

本書の内容は三部構成で、

歴史は「九条の心とわたし」など、平和憲法のなかに戦後思想的価値の原型をみたくつかのエッセー。とくに「平和を願うことは『ボケ』でも、理想主義でもない。平和は対話努力で築くものであり、武力・軍事同盟で生まれる事はない」というモデル、インリン・オブ・ジョイトイ(愛の求道者)の平和へのメッセージは深く心に残ったので紹介した。

人物では、本学の消問研(消費者問題研究所)のめざすところ

を歴史的にあとづけた「適度な欲望と消費 下出隼吉のこと」をはじめ思想家の肖像を集め、思想では丸山真男論をめぐるいくつかの論考を収めた。全体の評価については「出版ダイジェスト」の記事が他者の目が入った形で読んでいただけるので、抜粋する。

「中国や韓国などで反日デモや日本製品のボイコットが行われている。国連安保理の常任理事国入りにも風当たりが強い。…本書は、こうした動向を憂慮する

著者が、多大な犠牲の上に手に入れた民主主義や不戦、個の確立といった戦後精神の原点に立ち返り、その獲得と擁護に尽くした先人の思想的営為を、歴史・人

物・思想を核に俯瞰し、その歴史的意義を再認識したもの。ふたたび「日本が凝り固まらないために」平和憲法の原点に立ち返り、その精神を世界に広めることこそが、真の国際貢献であるとする一思想家の魂の叫びである。(五月一日号)

## 創立25周年

### 消費者問題研究所の講演会盛況

六月八日に名古屋ガーデンパレス(名古屋市中区)で、本学消費者問題研究所の第二十五回公開講演会が、山田宏氏(内閣府大臣官房審議官)、長野浩三氏(弁護士)、原早苗氏(埼玉大学・上智大学講師)の三氏を講師として開催された。

「消費者利益の確保のために企業の違法行為の差し止めや是正を求めて消費者団体が訴訟を起こす権利を認める制度」をいう。現在、この制度の確立をめざして政府部内で議論が積み重ねられ、来年の通常国会に法案が上程される予定である。

研究所創立二十五周年の講演テーマは「消費者団体訴訟制度の実現と活用をめざして」であった。消費者団体訴訟制度は



講演会では、制度の基本的な考え方や問題点について各講師からの報告を受け、小木紀之所長のコーディネートのもと活発な議論が行われた。フロアとの質疑応答もあつた。タイムリーなテーマでもあり、多くの参加者を得て、会は盛況のうち終わった。

来て!

見て!

体験  
しよう!

# オープンキャンパス

9月4日(日)

来る九月四日(日)にオープンキャンパスを開催します。オープンキャンパスは、大学進学を考える高校生にキャンパスを開放して、本学を知ってもらうためのイベントです。  
学部・学科紹介はもちろんですが、講義体験、先生方との相談コーナー、入試・学生生活相

談コーナー、施設見学(スタンブラリー)、ランチ体験など多彩なイベントを用意しています。また、在学生も先輩として授業のことでなく大学生活やクラブ活動のことなど、参加者の「ギモン」に同じ学生の立場から答えます。  
大学を見学したい!授業や入

試について知りたい!先生と話しがしてみたい!そんな皆さんの興味に答える名経大のオープンキャンパスは、十時から十五時三十分まで開催。オリジナルグッズのプレゼントもあります。夏の一日、友達や家族を誘って名経大を体験してください!  
(入学広報部)



## 北児童センターまつり

大口町の子らとのふれあい

本学の学生たちが丹羽郡大口町の北児童センター第一回センター祭りに、ボランティアとして参加しました。今年大学に新設された幼児保育学科児童文化研究会の五名と、



短期大学部保育科船井ゼミの四名です。  
午前中は、日ごろ児童センターを中心に活動している親子のオカリナの演奏会などにまじって、学生たちにも幾つかの催しをする機会が与えられました。  
短期大学部保育科の四名は、授業や実習などで学んだ手遊びで子どもたちと交流したり、テレ

ビの人気者の扮装でクイズを楽しんだりしました。児童文化研究会の五名は、現在開催中の万博にもからめて、「森の動物と帽子屋のおじさん」をテーマとしたパネルシアターを上演しました。リコーダーの伴奏つきでコミカルな動きを見せる帽子屋のおじさんに、ちびっ子たちも一緒に身体を動かしてすっきりお話の中に入り込んでいました。  
子どもたちの反応も上々で、学生も自分たちの企画と練習の成果に自信が持てたようでした。午後にはスライム作

### 広報編集委員会メンバー

- 委員長 佐々木龍夫(事務局長)
- 副委員長 岡本秀昭(経営)
- 委員 石川昭義(人間生活科)
- 木村隆夫(経済)、近藤久雄(法)
- 代田義勝(キャリアデザイン)
- 渡辺道斉(同)、加藤達也(図書館部長)
- 西尾徳治(学生部長)
- 中生加康夫(広報編集室)

短期大学部保育科教員 船井廣則